



https://www.co-conv.jp/product/co-gateway/with_avd.html

仕様

基本機能：

- ・ Microsoft社 Azure Virtual Desktop を利用した VDI 基盤を提供
- ・ HTML5対応のブラウザのみで利用可能
- ・ リモートデスクトップアプリケーションも利用可能
- ・ Azure Virtual Desktop の運用管理を支援
- ・ Azure Virtual Desktop のマルチセッション機能に対応

スケジューラ機能：

- ・ AVD 環境の利用予約をカレンダーにてイベントとして登録
- ・ カレンダーは GUI により設定
- ・ AVD 環境の利用可否をカレンダー上のイベントに基づき設定および制限
- ・ イベントは開始時間・終了時間・開始日・終了日・曜日により設定
- ・ イベントごとに「最大利用者数・待ち受けする台数・許可された利用者グループ・連続利用できる時間・端末のコア数・GPU の要否 (Azure 上のシリーズ)」を設定
- ・ 稼働する端末台数を、稼働中の台数・利用者数と待ち受けする台数に基づき自動的に増減
- ・ 利用許可時間を超過した利用者の強制退出機能
- ・ 継続利用を希望しない利用者を強制退出させ端末を自動停止
- ・ マルチセッション環境において、イベント毎に異なる端末群を割り当て

利用者グルーピング機能：

- ・ 利用者をグルーピングし、VDI 環境の利用可否の判断に利用
- ・ 利用者のグルーピング情報を CSV 形式のデータにより登録

端末環境管理機能：

- ・ 複数種類の端末環境をディスクイメージとして管理し、複数台の端末の起動に利用
- ・ ディスクイメージ更新後に、端末台数によらず即時に更新後の環境で起動可能
- ・ ディスクイメージ差分管理機能
- ・ ディスクイメージ ロールバック機能
- ・ 端末ごとに異なるディスクイメージを利用可能
- ・ 利用者による接続時に接続先の環境を選択して利用可能

接続認証：

- ・ LDAP によるパスワード認証 ないし Microsoft アカウントによるフェデレーションによる接続認証
- ・ セッションホストに対する Microsoft アカウントを利用した Single Sign On 機能
- ・ LTI 1.3 の LTI プロバイダとして動作

セッションの継続性：

- ・ 利用者が利用を終了させた端末環境はその都度復元
- ・ 利用者が接続を切断した後所定の時間内に再接続した際には、前回切断時と同じ環境を継続利用できる
- ・ 利用者が接続を切断して一定時間経過後に端末環境を強制終了する

費用管理機能：

- ・ Azure のコストを「1時間あたりの金額」「年度初めからの累積金額」で表示

共有VDIソリューション



CO-Gateway with AVD

Powered by  こじゅ〜る

株式会社シー・オー・コンヴ

〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1番地7 百万遍ビル3F
Mail : info@co-conv.jp / Tel : 075-606-5394

<https://www.co-conv.jp/>

Copyright 2024 CO-CONV All rights reserved 2024.10

これまでのVDIサービスの課題を解決 もっと自由で、もっと便利なVDIを実現



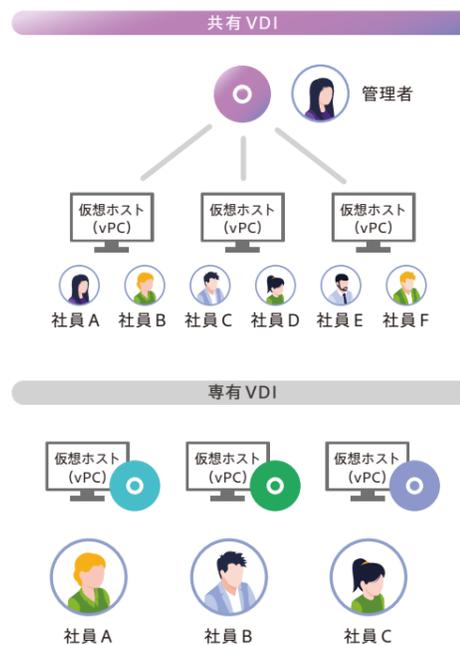
共有VDIとは？

「共有VDI」は複数人で1つの仮想デスクトップ環境を共有します。個人ごとではなく、同時利用する人数分の環境を準備し複数の利用者で入れ替わりながら利用するため、VDI環境のコストを抑えられるのが特長です。

一方、これまで「一般的な事務用・業務用」として提案・利用されてきたVDIは「専有VDI」と呼ばれ、一人1台環境を準備し、24時間365日、個人ごとの環境が稼働し続けます。そのため、「一人当たりではVDIを利用する時間が短い」「全体では利用する人数が多い」場合には、リソースやコストの無駄が大きくなります。

また、専有VDIでは端末環境の管理は利用者各個人に任せきりになりがちですが、共有VDIでは組織の管理者による全利用者の端末環境の一元管理が可能になり、セキュリティ対策を行いやすくなります。

共有VDIのメリットを最大限に引き出す製品である『CO-Gateway with AVD』は、最小限のコストで安全で利便性の高いVDI環境を実現するソリューションです。



共有VDIが適する用途は？

共有VDIは次のような用途に適しています。

- コールセンター内端末や事務作業用端末、窓口端末といった、同じ環境を多くのユーザーが使う場合
- 休日・夜間みのリモート利用、出張時の出先からのみのリモート利用など、それぞれのユーザーの利用時間が短い場合
- ユーザーが端末管理に不慣れで、ユーザーによる端末環境のメンテナンスが難しい場合
- ウイルス侵入に備えたセキュリティ対策を頻繁に行いながら、常に端末を安定稼働させたい場合
- セキュリティを重視する環境に出入りするための踏み台端末として使う場合



CONCEPT

Microsoftの「Azure Virtual Desktop(AVD)」を共有VDIサービス基盤として運用するために必要となるさまざまな機能を備えています。これまでのVDIサービスの課題を解決し、便利で使いやすいサービスを実現します。



AVD (Azure Virtual Desktop)は、Microsoftのクラウド(Azure)で提供されるサービスです。クラウドサービスなので、使いたいときに必要な分のリソース (CPU/メモリー/ストレージ)を借りられ、使った分だけを支払う従量課金制で利用します。これまでの主流だったオンプレ型VDIサービスは、初期構築や追加構築にかかる時間的・費用的コストが大きく、導入のハードルが高いことがネックでした。一方、クラウド型VDIサービスは、導入コストを大幅に抑えられることが特長です。

『CO-Gateway with AVD』は、クラウドVDIサービスであるAVDの特徴を最大限活かしながら、共有VDIとしての運用を期待するお客様に適したカスタマイズを可能にする、使いやすさを追求したシステム

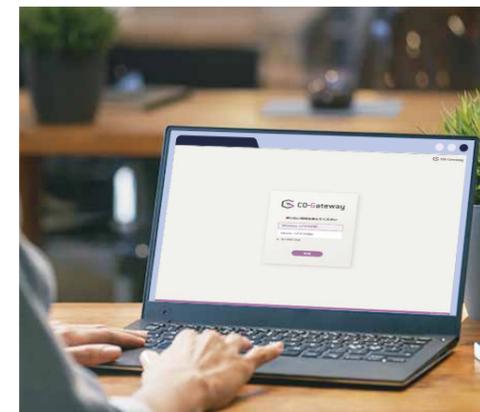
です。独自開発の技術を活かし、従量課金であるクラウドサービスの「利用時間を最小化」と、同じ内容を持つ「ディスクイメージの共通化」をすることで「低コストで高性能なVDI環境」を提案します。

※ CO-GatewayはオンプレVDIとの連携も可能です。オンプレの端末群で動作するWindowsやLinux環境へのVDI接続もできます。これらの端末群も共通化されたディスクイメージを使って端末を起動することで「統一された環境」で動作します。ご検討のお客様はご相談ください。

1

ワークスタイルの自由度アップ

VDIを用いれば、どこからでもいつもの作業環境にリモート接続できます。自宅やカフェ、お客様先など、作業場所を選ばないので自由度・利便性アップに貢献します。VPNを使い通信を暗号化するVDIは、セキュリティにも十分配慮されたサービスです。データはVDI接続先にのみ存在し接続元の端末には画面情報しか送られないため安全です。



2

簡単に使える

ユーザーがVDIを利用するのに特別なアプリケーションや難しい操作は必要ありません。Webブラウザを立ち上げてクリックしていただくだけで、簡単に「共有VDI環境」につながります。(※ブラウザではなく「リモートデスクトップ接続」を利用することもできます。)

一方、ブラウザだけで利用できるVDIなので、ブラウザを閉じるだけで作業を終えてしまう人が多くなります。『CO-Gateway with AVD』は長時間にわたり操作がない利用者に対して利用継続中か問い合わせた後に端末を停止することで、端末が起動し続けて無駄なコストが発生することを防ぎます。

3

接続元端末を選ばない

VDIへの接続・利用はWebブラウザベースのため、ユーザーの手元にある接続元端末は自由に選ぶことができます。ChromebookやMac、iPadといった非Windows環境端末からでも、接続先の仮想Windows環境を利用できます。これらの接続元端末に適切な自動アップデートを設定すれば、管理者は接続元端末の管理から解放され、運用コストが大幅に削減できます。

※ Windows端末を接続元端末として用いる場合には、それらの端末をネットブートシステム「CO-Colorsはたて」で管理し、環境統一することで運用コストを下げることをお勧めします。



VDIでも管理者による一元管理が可能に 管理性アップの工夫

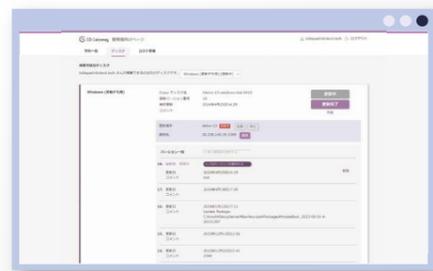
共有VDIでは、仮想ホストのディスクイメージを集中管理することがVDIの管理性アップにつながり、管理者にも多くのメリットをもたらします。

ディスクイメージを集中管理すると仮想ホストごとの大容量のディスクが不要になり、コスト削減に繋がります。同時に、すべての端末を同じ状態で安定して稼働させることができます。ディスクの更新後にディスクイメージを複製する作業が不要となるため、管理者の待機時間が大幅に削減されるだけでなく、多数のディスクイメージをバックアップとして保持することで細やかなメンテナンスを行いながらセキュリティを確保できます。

POINT 01 一元管理で運用を楽に

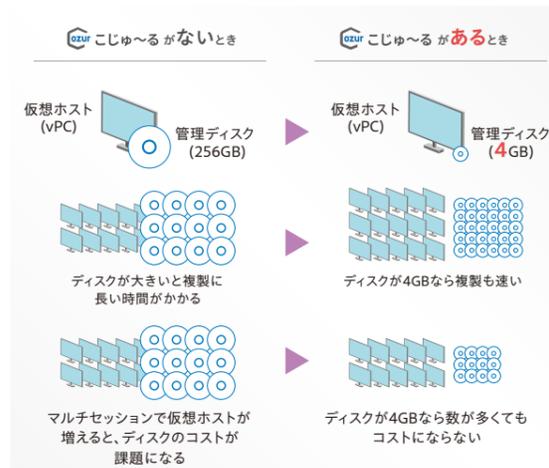
CO-Gatewayでは管理者による全職員環境の一元管理を可能にします。ディスクイメージに対するWindows Updateや設定変更を利用者任せにするのではなく、管理者が一元的に実施できます。

また、ディスクイメージの更新作業はブラウザのみで非常に簡単におこなえます。直感的な操作が可能な管理画面で、1日に何度でも修正や更新を行える、イメージのバックアップを残す、更新後に問題があったときにはただちにロールバックできるなど、細やかなメンテナンスを実行できます。ディスクイメージは差分ディスクで管理され、サーバ側の容量削減に貢献します。



POINT 02 コスト削減に貢献

AVD環境においてもっとも大きなコストになるのが仮想ホストおよびそこに接続されるディスクです。CO-Gatewayは接続時間をコントロールして従量課金の費用を抑えることで仮想ホストの費用を削減します。CO-Gatewayを用いるとOSやアプリはすべてサーバー上で管理されます。このとき、端末側には最小限のディスクしか必要としないため、仮想ホストごとの大容量ディスクが不要になります。仮想ホストには4GBと小さいディスクを接続し、そのディスクから仮想ホストは起動します。



世界初！オリジナル開発

AVD環境における最高の ディスクイメージ管理ソリューション



こじゅ〜る (Cozur) は、CO-CONVが開発した「同じ環境で動作する多数のVDI環境を作るための技術」です。

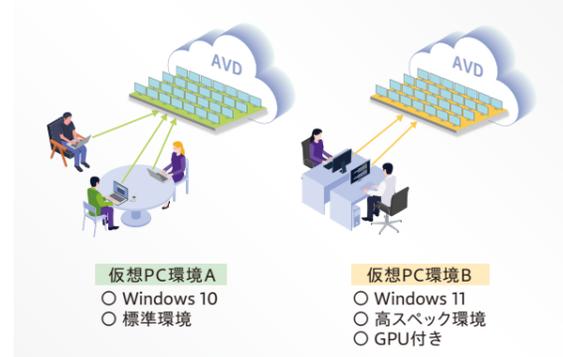
こじゅ〜るを利用した環境では、端末は「再起動することにより復元」されるため、毎回安定した状態から端末を利用できます。各VDI環境に(大容量の)ディスクを接続する必要がないため、費用の大幅な削減に効果を発揮します。また、Windows updateやアプリケーションの設定変更といったディスクイメージ管理をVDI利用者に任せるのではなく、システム管理者による集中的な一元管理することで、安定稼働とセキュリティ向上を実現します。こじゅ〜る (Cozur) はVDI環境の管理性を高めるためのキーとなる技術です。

こじゅ〜る (Cozur) の効果

- コスト削減**
ディスク数を削減することで費用を大幅に削減
- 運用の自由度アップ**
利用目的ごとに環境の構成やスペックを変更

POINT 03 運用の自由度が増す

ディスクイメージを集中管理することで、複数のディスクを準備し、利用者ごとに異なる環境を提供できます。CO-Gatewayは利用するユーザーや利用目的にあわせて「CPUのコア数やGPUの有無」といったリソースの割当変更や利用ルールの変更を簡単に行うことができます。利用者の「履修状況」「所属部門」などの属性に応じて、異なる環境に誘導します。



POINT 04 管理業務を楽にするUI

従量課金制のAVDを運用するには、利用時間と費用の把握が重要です。CO-Gatewayスケジューラーは、稼働中のAVD環境の情報を分析し、管理画面において時間当たりのコストや年度頭からの累積コストなどを可視化します。時間当たりのコストを簡単に確認できることで異常な費用の発生に早期に気づけるようになり、迅速な対応につながります。

